

平成30年度市民対話集会

本竜王地区自治会合同会議(竜王一・二・三・四区)

「2025年問題 ～未来を考える～」

日時：平成30年7月9日(月)

午後7時から

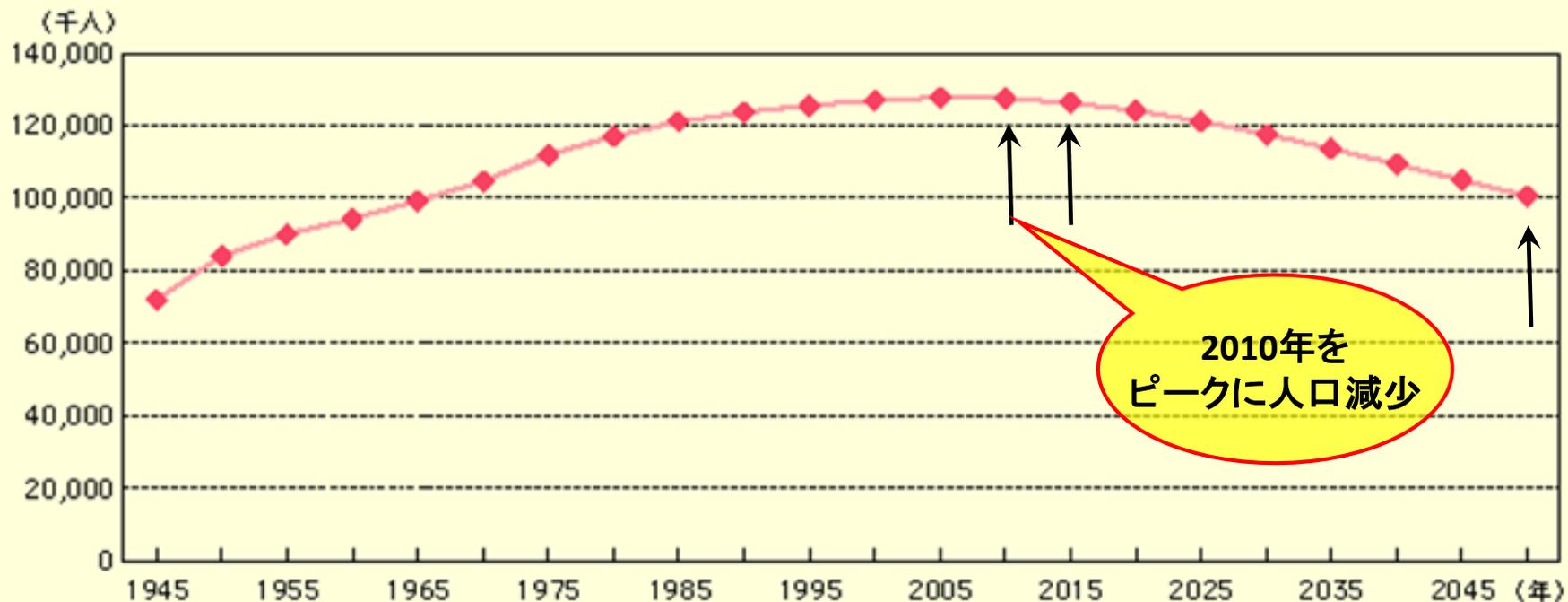
場所：竜王4区公会堂

甲 斐 市

※さわやか福祉財団資料から引用

日本の現状 「肩車式」へ（介護保険の限界）

日本の現状



資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (平成 14 年 1 月)」

2010年 人口 128,000,000人

高齢者人口 29,240,000人(22.8%)

2015年 人口 126,000,000人

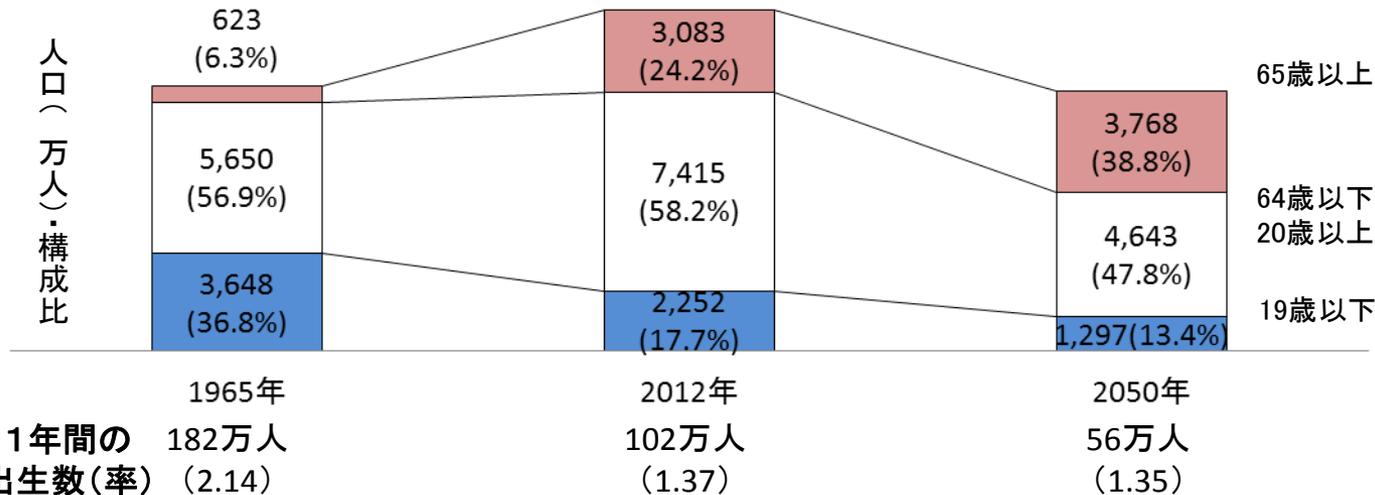
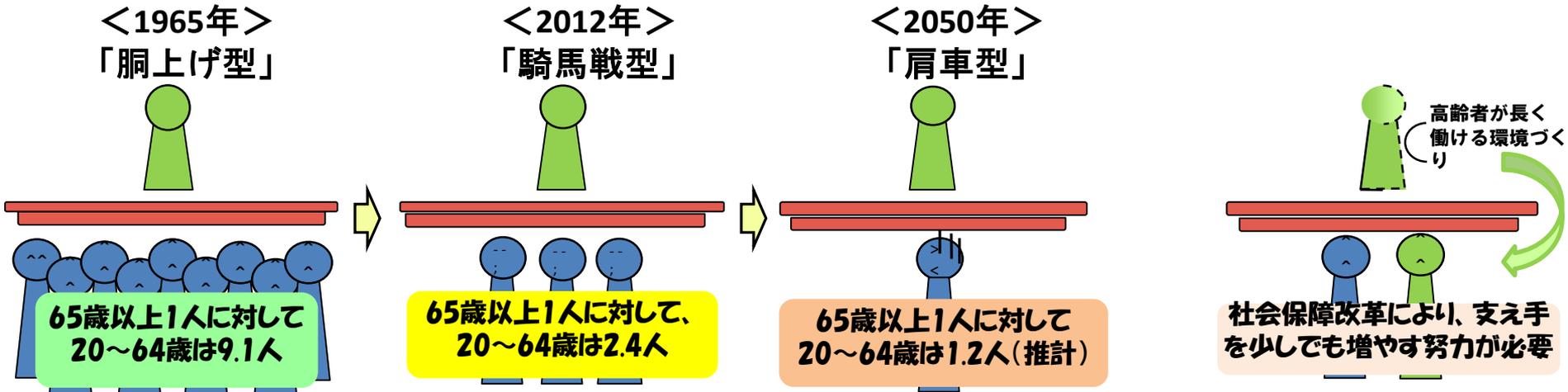
高齢者人口 33,960,000人(26.9%)

2050年 人口 97,080,000人

高齢者人口 37,680,000人(38.8%)

「肩車型」社会へ

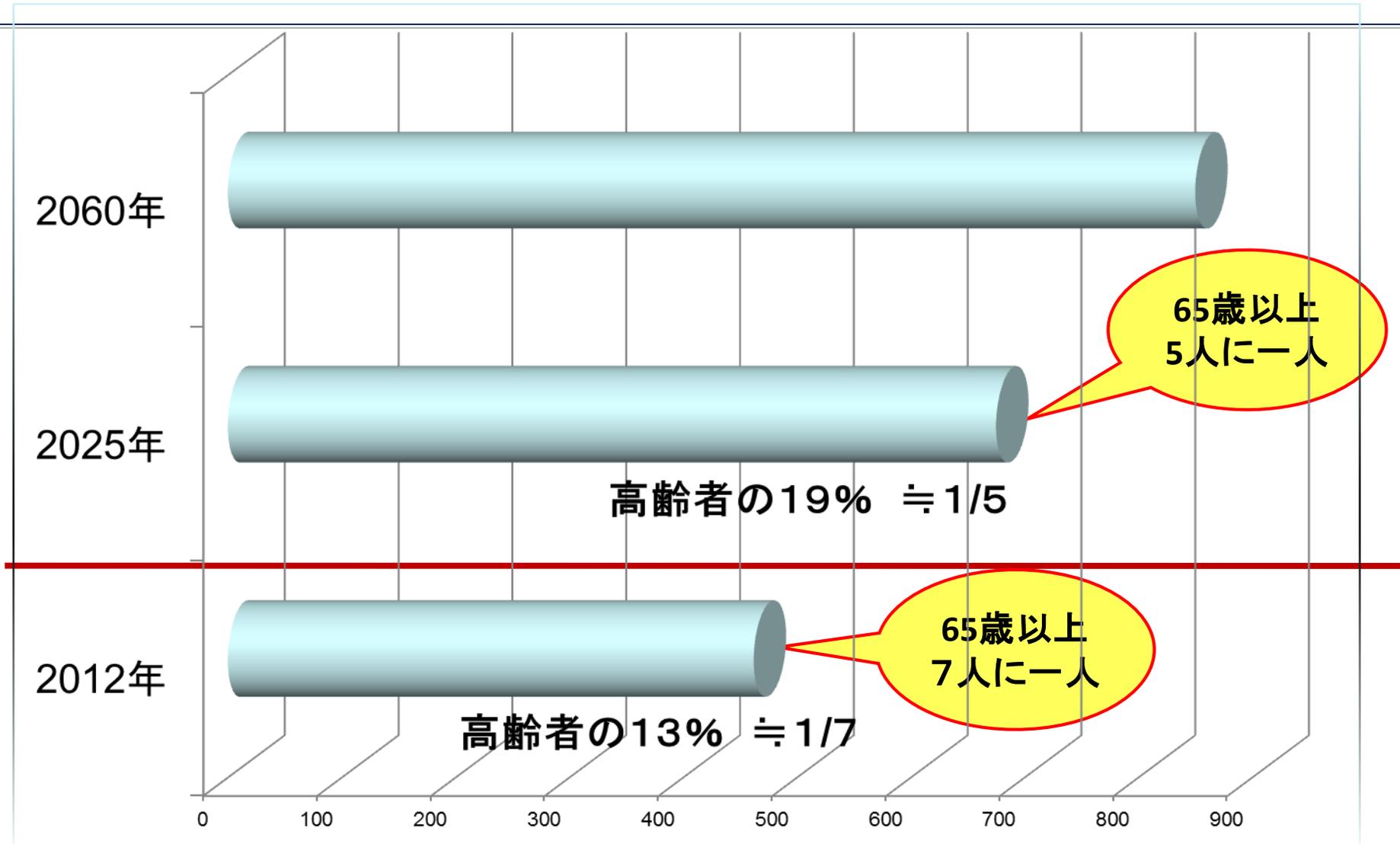
今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れます。



(出所)総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」、厚生労働省「人口動態統計」

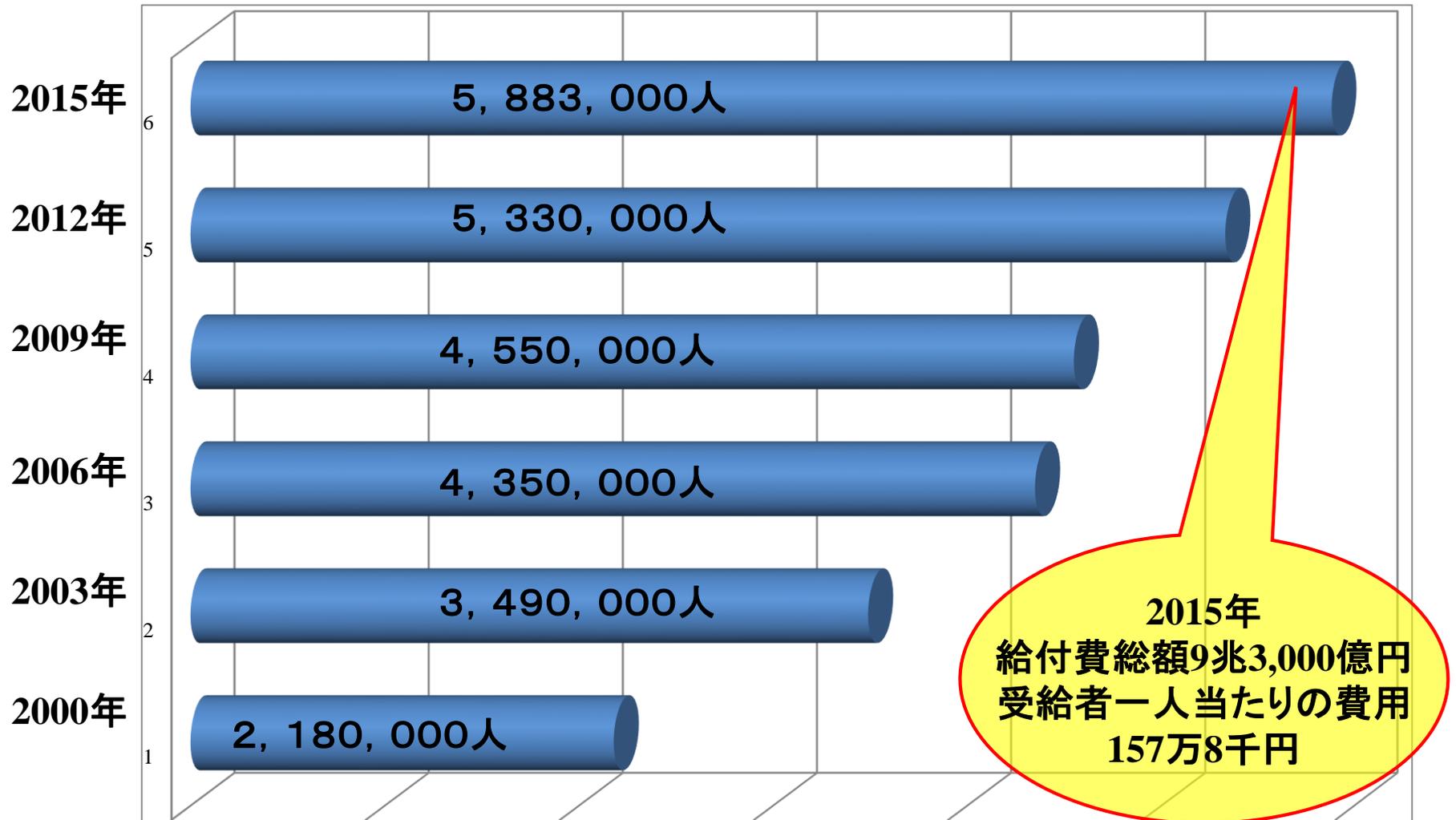
認知症高齢者人口の推移

Change of the dementia elderly person population



要介護認定者数の推移

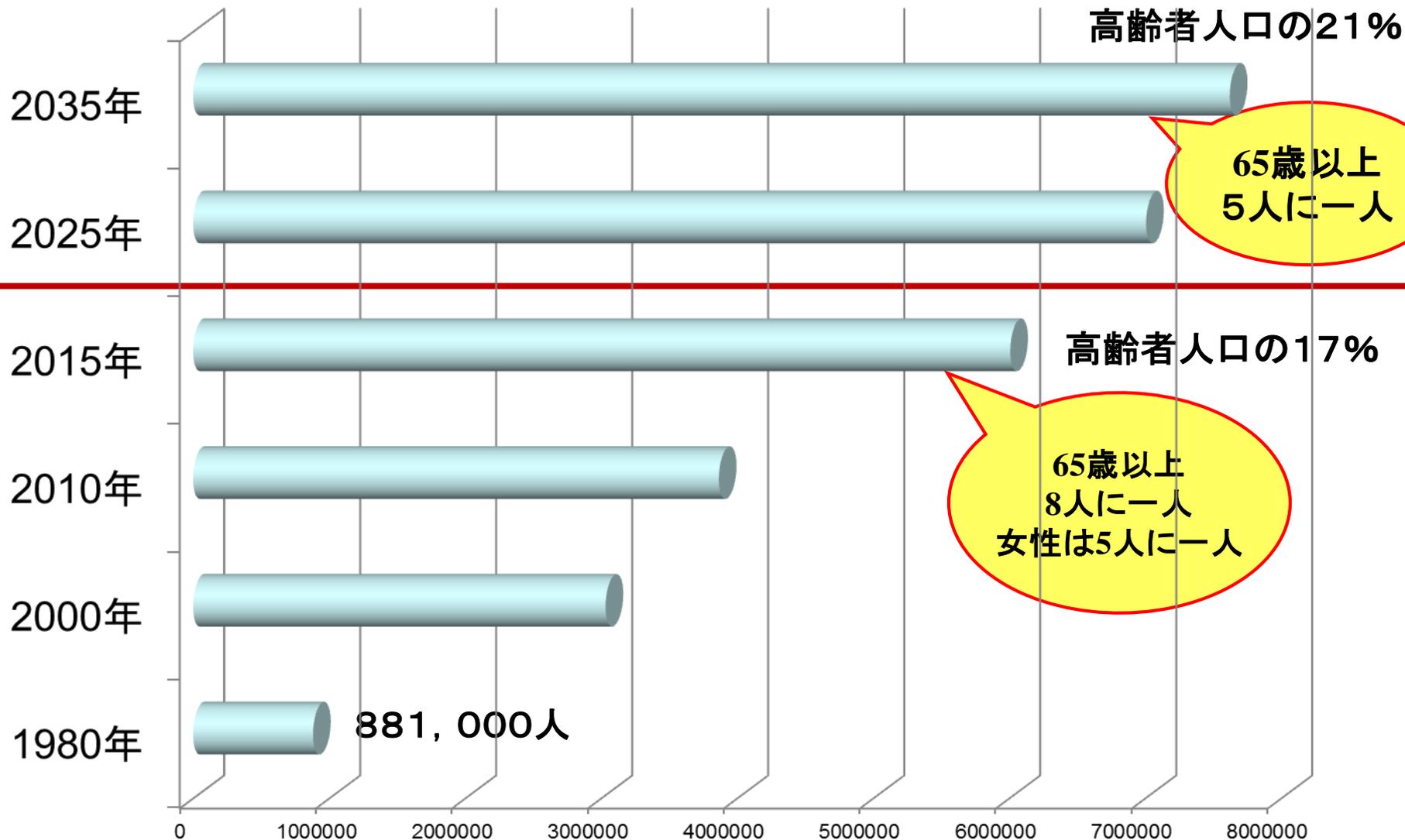
The elderly person who needs care



平成26年度 介護給付費実態調査の概況(平成26年5月審査分～平成27年4月審査分)

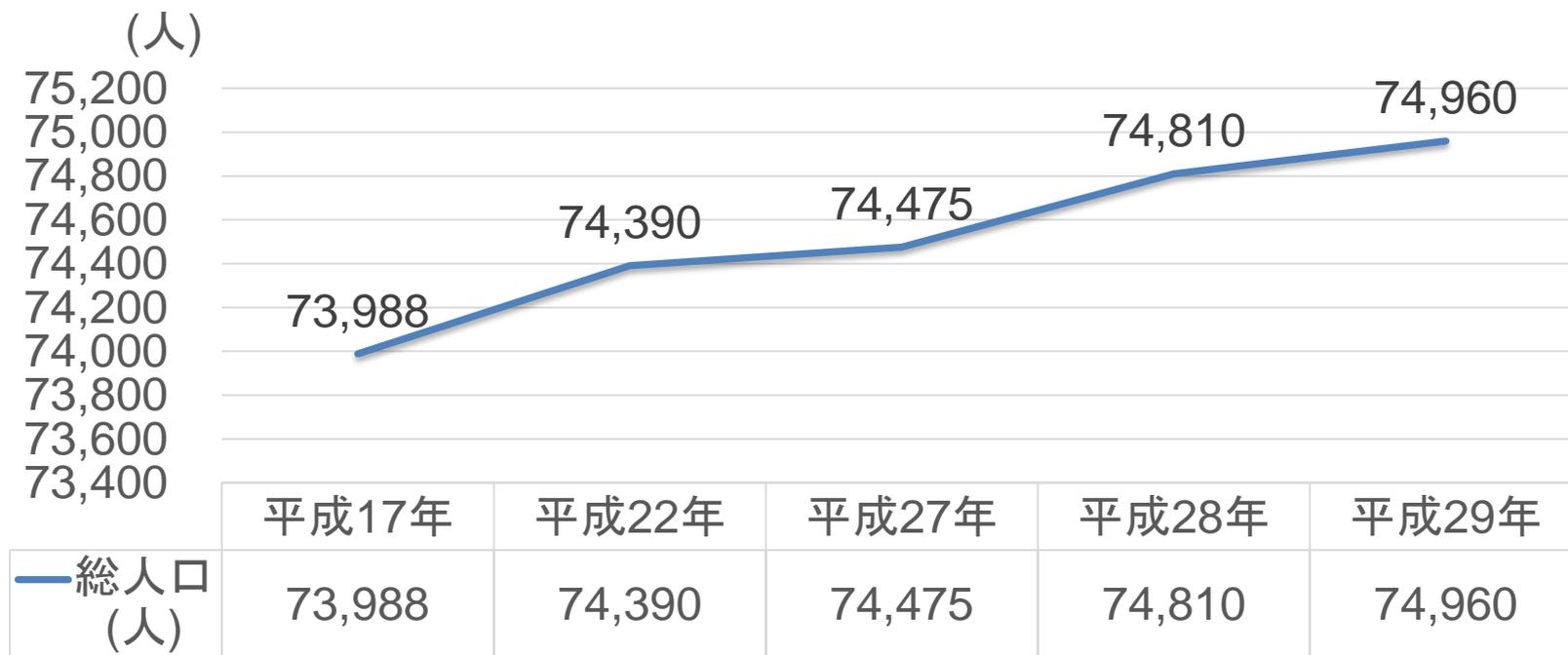
ひとり暮らし高齢者数の推移

The elderly person who lives alone

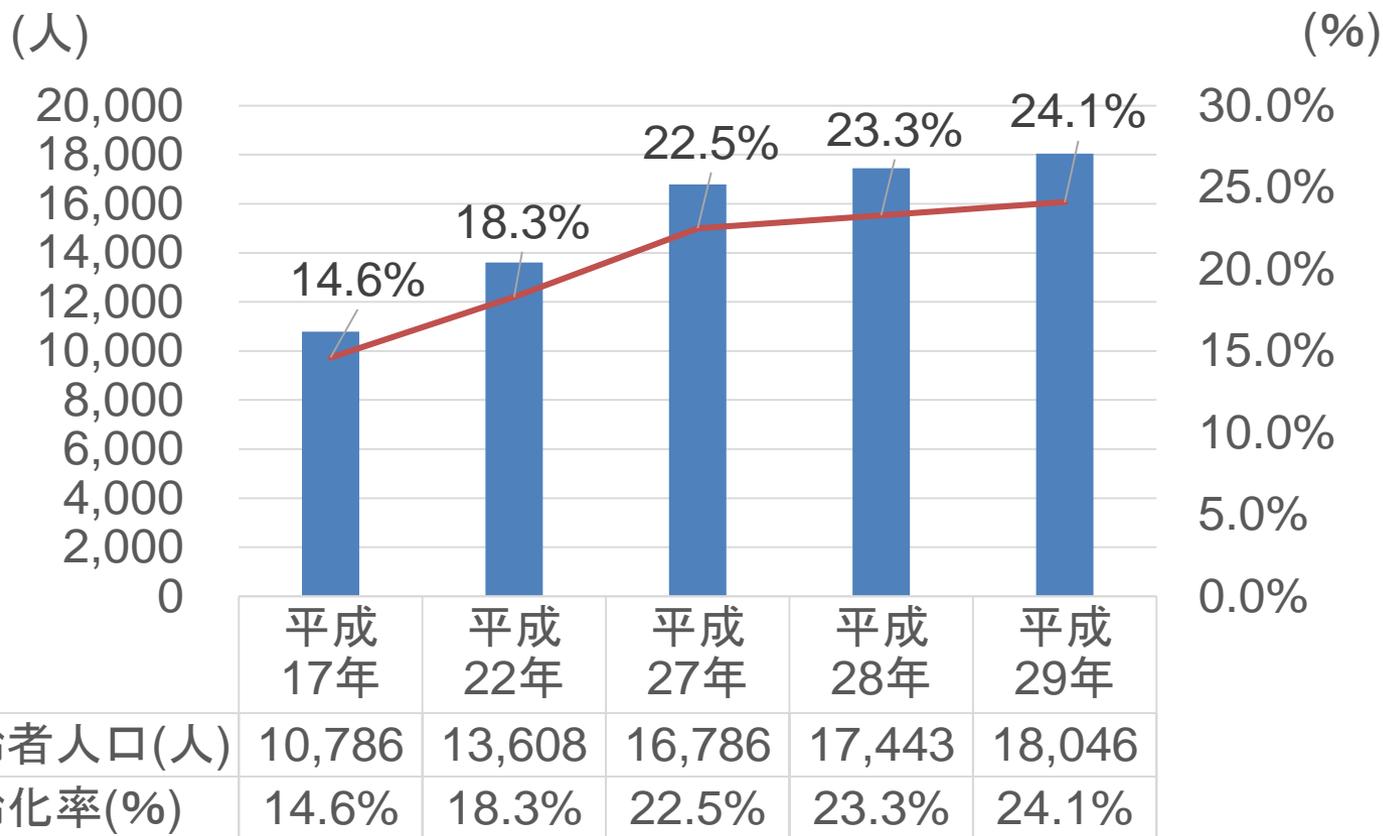


甲斐市の人口推移

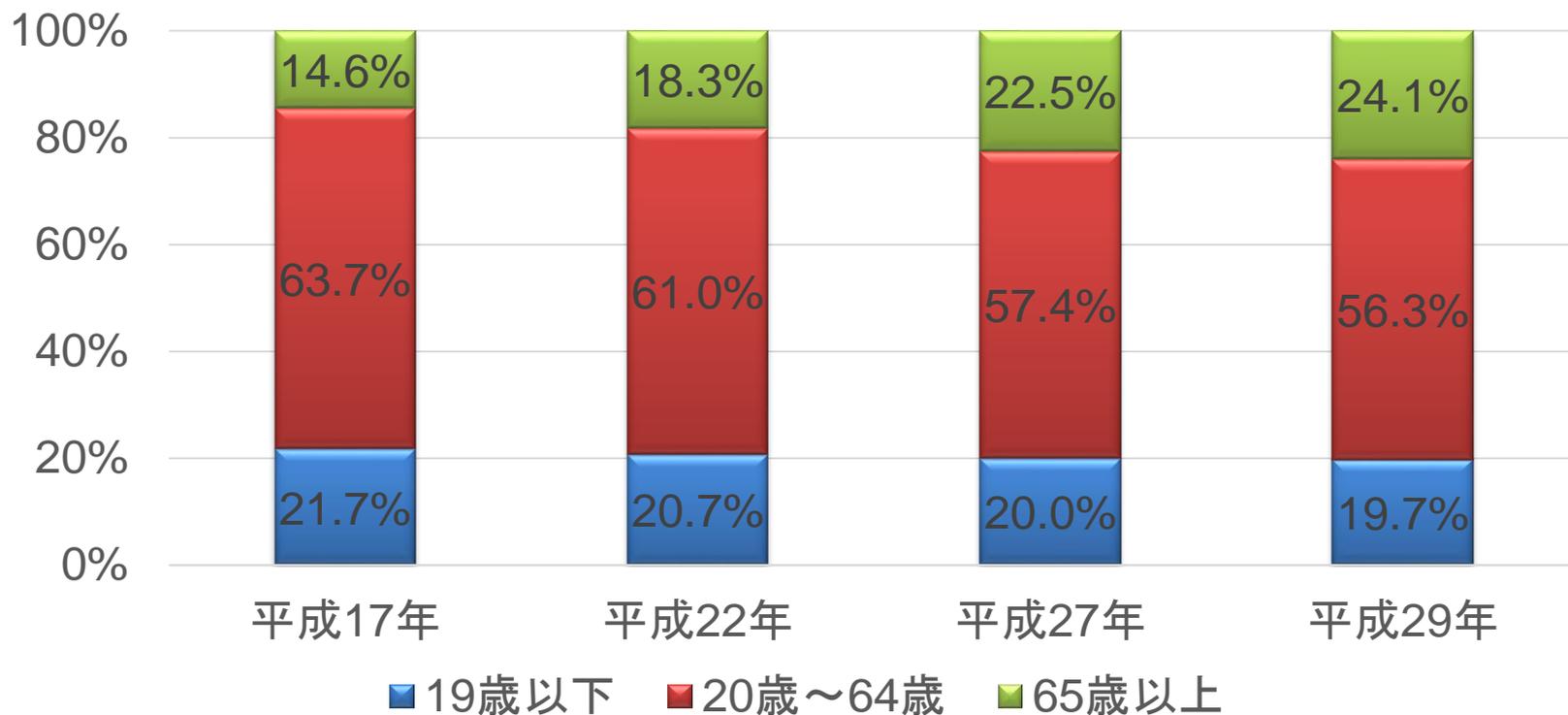
総人口(人)



甲斐市の高齢者人口の推移

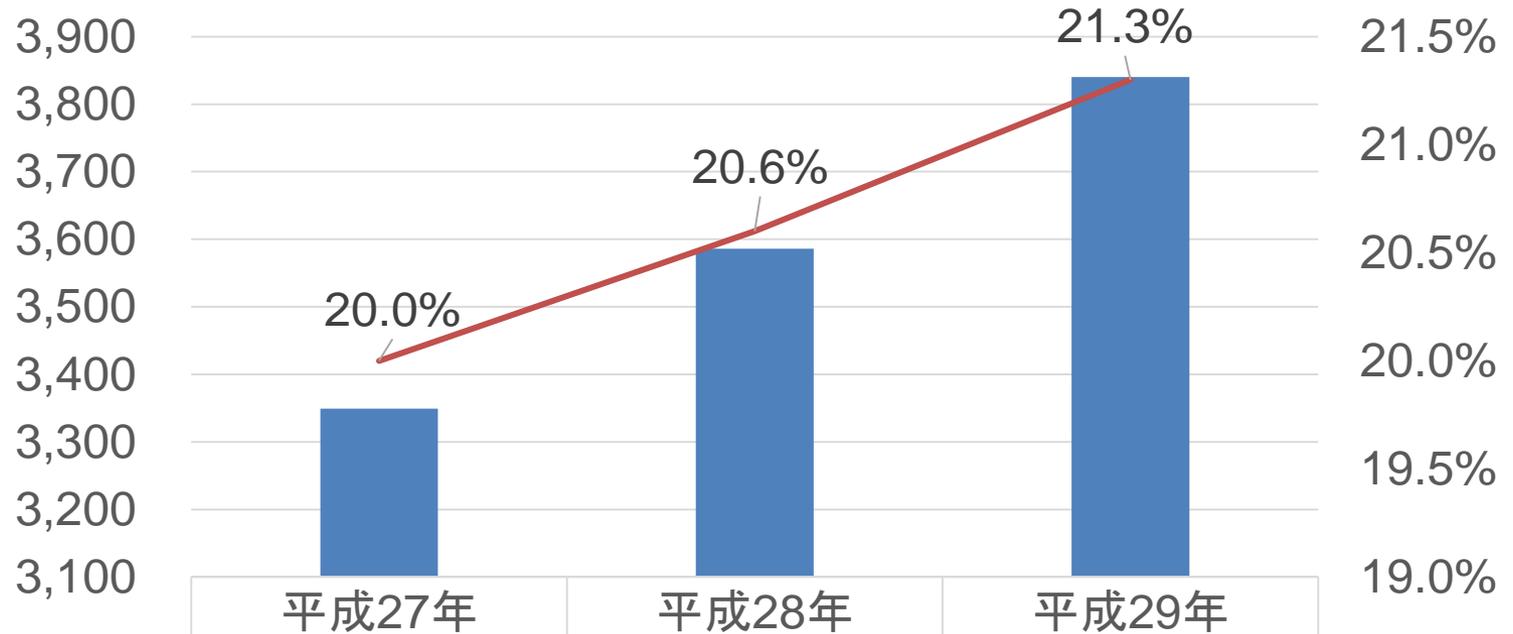


甲斐市の人口構成比



ひとり暮らし高齢者の推移

(人)



| | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| ■ 世帯数(人) | 3,349 | 3,586 | 3,840 |
| — 割合 | 20.0% | 20.6% | 21.3% |

地域包括ケアシステムと 地域支援事業について

地域包括ケアシステム(2つのコンセプト)

目的 住み慣れた地域で尊厳のある生活が続けられる仕組みづくり

●地域における医療と介護の連携

診断・治療・ケア・リハビリテーション・健康増進に関連するサービスの連携体制を構築する概念

* 主に医療や介護の関係者、行政等の取り組む課題



●地域の支え合い、助け合いの推進

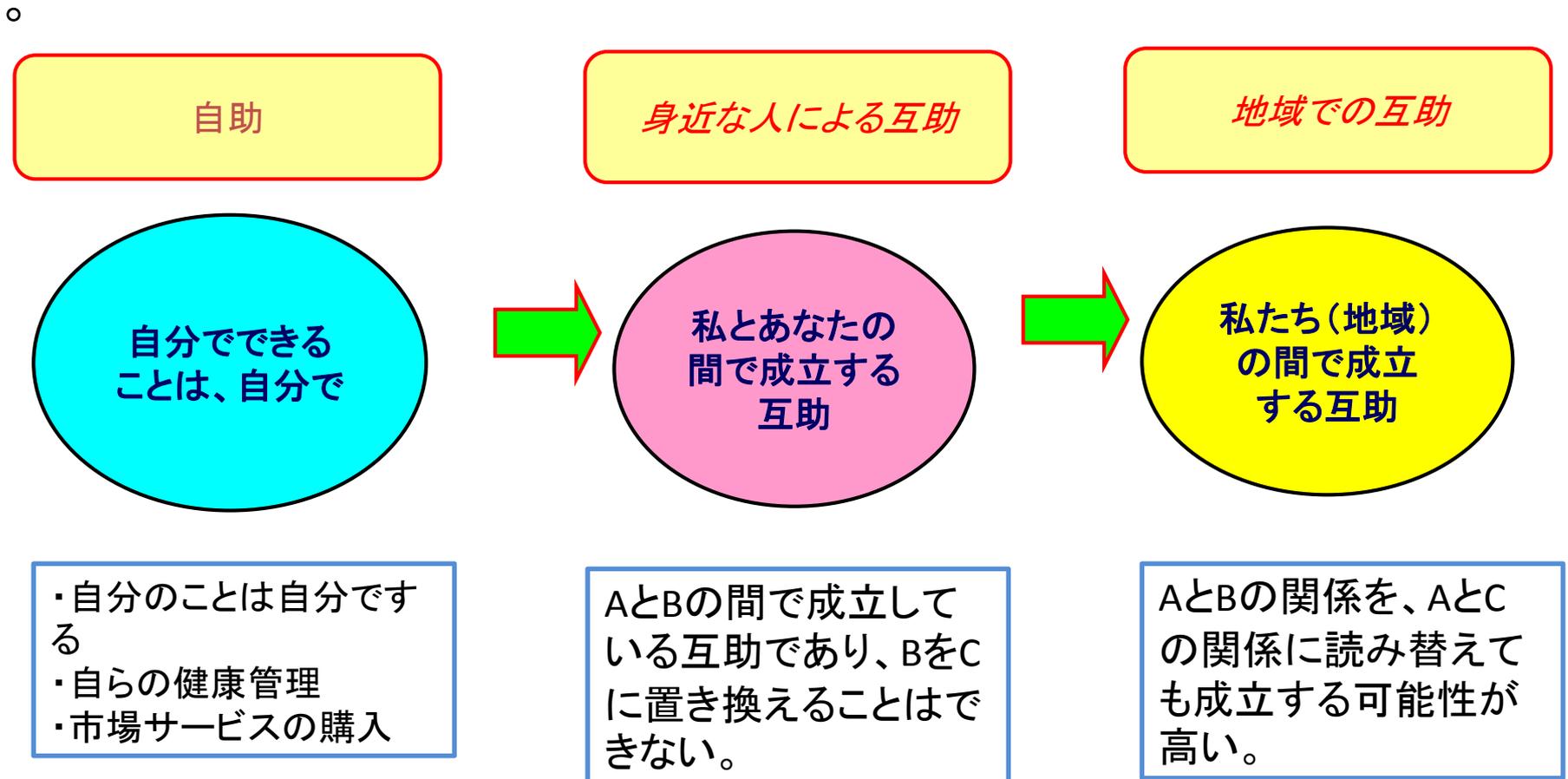
住み慣れた地域の中で、医療と介護の統合ケアや、**地域社会による参画を保証**しながら構築されるケアのとりくみ

* 主に地域住民(住民、NPO、活動団体、企業)等の取り組む課題

地域での支えあい体制構築の推進

地域を基盤とした支えあいの構築

- 地域での支え合いは、昔から行われてきたこと。しかし、最近では地域の出来事に無関心な人が増えている。その一方で独り暮らし高齢者や、認知症の人など、自助だけでは生活に支障をきたす人が増えている。



新しい地域支援事業の理解

地域支援事業

● 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）

目的：利用できるサービスの多様化

介護保険事業所のサービス＋住民・ボランティア・NPO・事業所等による多様なサービス

● 包括的支援事業

- ① 地域包括支援センターの運営（地域ケア会議推進事業）
- ② 在宅医療・介護連携推進事業
- ③ 認知症総合支援事業
- ④ 生活支援体制整備事業

目的：◎ 医療介護連携の構築 ①②③

◎ 地域における支え合いの推進 ④

生活支援コーディネーター
・協議体の設置

地域支援事業で目指すのは「地域づくり」

プロ(専門職)でないと出来ない介護はプロが

プロ(専門職)でなくてもできる生活支援や助け合いは住民が主体となり地域で支えあう仕組みに…

数年後、要介護1・2の方の生活援助が保険から切り離される可能性も…

この部分に元気高齢者の力も借りる

このことが高齢者自身の役割⇒生きがい⇒介護予防につながる

じっくりと時間をかけ(る余裕はないかもしれませんが…)

このような地域づくりをおこなっていくことが

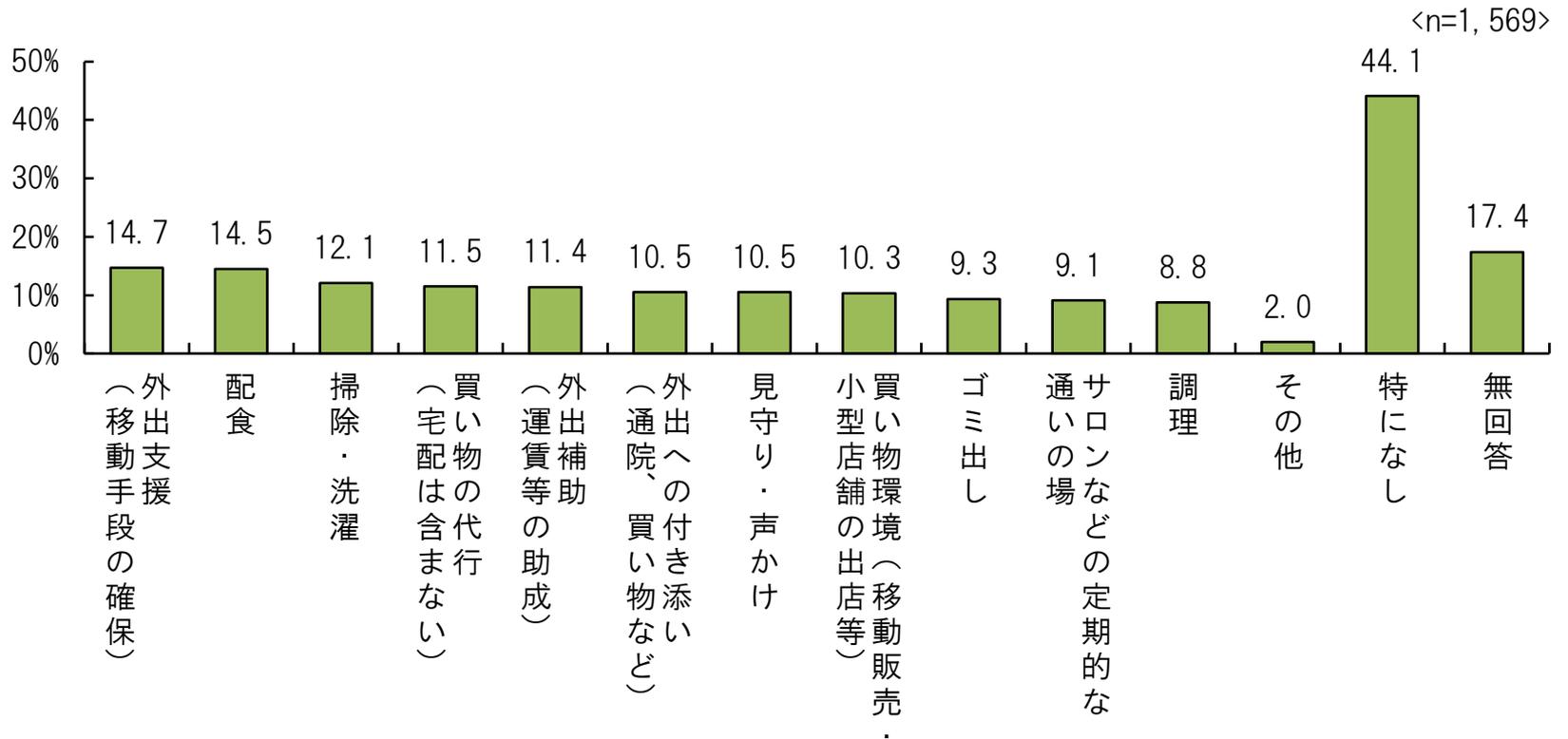
地域支援事業の目的のひとつです。

～地域支援事業は時間をかけた「地域づくり」のプロセス～

とされています



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



H28年度介護予防・日常生活圏ニーズ調査

甲斐市における これまでの取り組み

地域フォーラム
甲斐市にも訪れる2025年問題
～わがまちの未来を考える夜～

- ◆平成29年9月26日 19時～21時
- ◆双葉ふれあい文化館ホール
- ◆約400人が参加
- ◆住み慣れた地域でいつまでも笑顔で元気に安心して暮らせるために、今後どのようなまちづくりを進めていくかを考える機会として開催



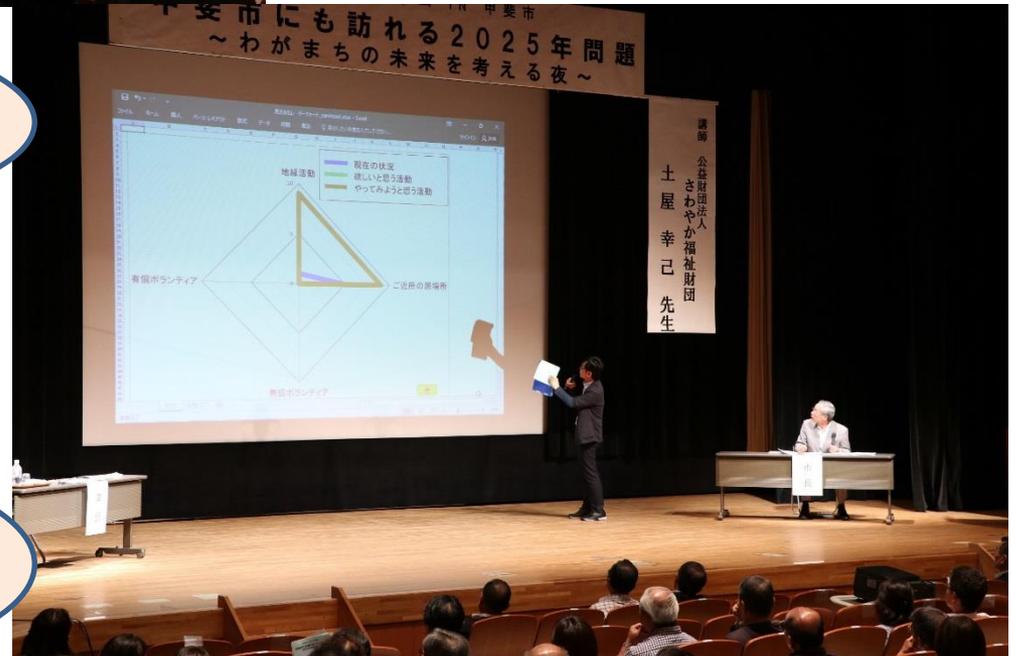
さわやか福祉財団
土屋先生による講演

市や社協より
高齢者を取りまく
現状の説明

笛吹市のボランティア
ア団体の事例発表

竜王新町サンサロン
活動報告

保坂市長を交え
見える化チャートを
実施



市民ワークショップ
わがまちの未来を考える勉強会

- ◆平成29年10月26日・11月9日・30日
- ◆竜王北部公民館ホール
- ◆のべ180人の参加
- ◆地域におけるニーズ把握と地域資源の掘り起こしを行い、具体的なささえ合いの取り組みを考える機会として開催
- ◆住んでいる地域ごと(小学校区ごと)に班に分かれグループワークを実施



どんなささえ合い
活動があったら
良いですか？

あなたはどんな協力
ができますか？

誰の協力があったら
よいですか？



地域の困りごと

| 順位 | 困りごと |
|----|----------|
| 1位 | 通いの場 |
| 2位 | 移動支援 |
| 3位 | 生活の手助け |
| 4位 | 話し相手・見守り |

協力が必要な
人・団体

| | |
|------------|---------|
| 自治会(区・組) | 社会福祉協議会 |
| 老人クラブ(長寿会) | 介護関係職 |
| 商業施設 | 行政 |
| 民生委員 | |

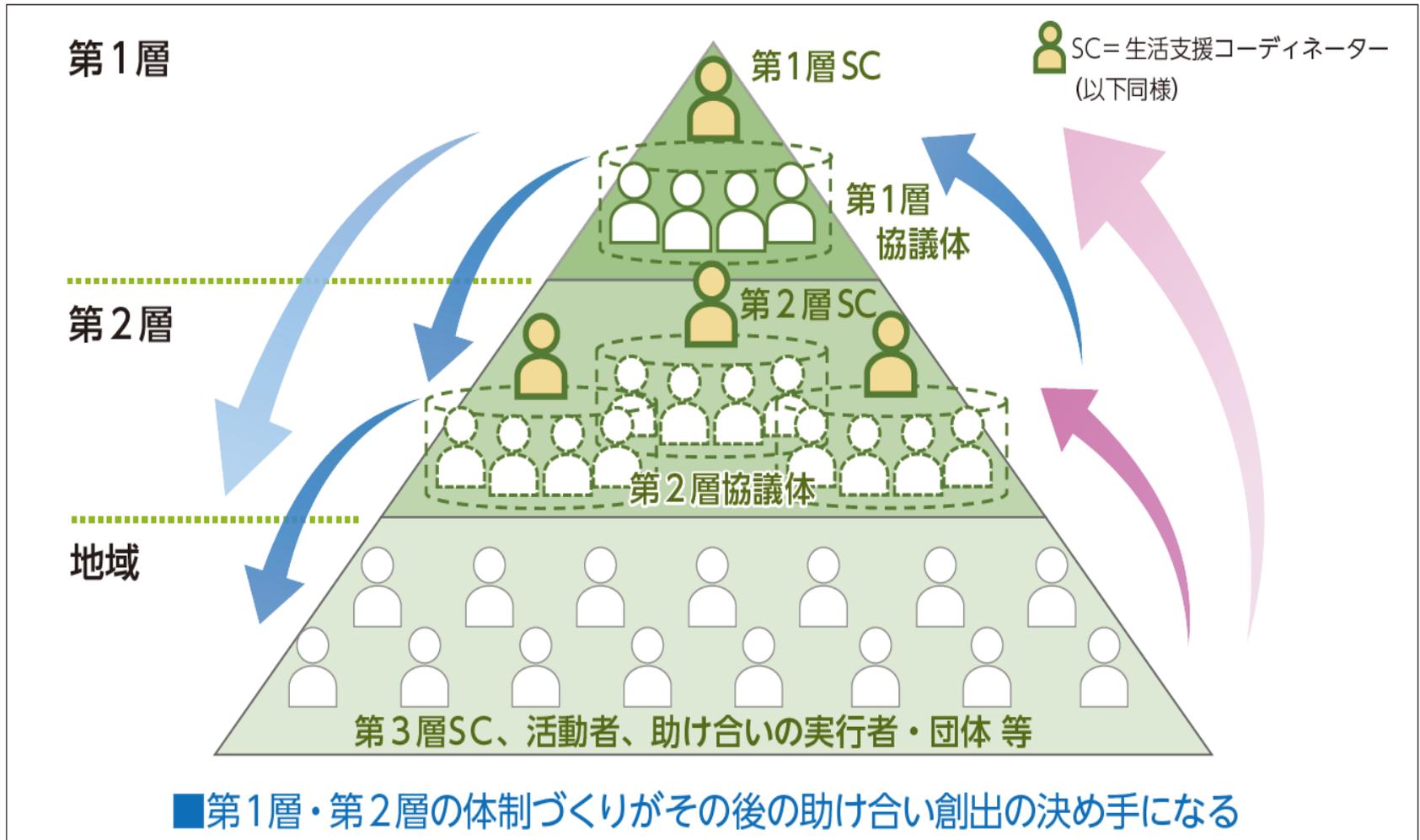
第1層協議体 甲斐市ささえ合い推進会

- ◆平成30年3月13日設置
- ◆住民代表4名+組織代表10名
- ◆目的:市全域に係る地域課題やニーズの情報共有をするとともに、課題解決に向けた協議・検討を行い、資源開発等につなげる。また、地域への働きかけやサポートを行うことにより、住民主体の助け合い・支え合いの地域展開を図る。

第1層協議体 甲斐市ささえ合い推進会

◆市内11小学校区ごとに地域における推進会(第2層協議体)を立ち上げることを目指し、取り組みを進めていきます

今後目指していく姿



全国の先進的な取り組み

常設型の居場所

静岡県袋井市 NPO法人たすけあい遠州 街の居場所「もうひとつの家」

“いつ来てもいい、いつ帰ってもいい、もうひとつの家”

- 駅前のスペースを借りて運営
- 開設時間は、火曜～土曜日の午前9時～午後5時
昼食を300円で提供できる
- 近所の主婦やサラリーマン、学生、旅行者なども気軽に訪れる
- 介護予防や住民参加の基盤づくりにもなっている。見守りなどの助け合いも生まれている

| | |
|------|-----------|
| 市の人口 | 約 87,200人 |
| 高齢化率 | 21.2% |



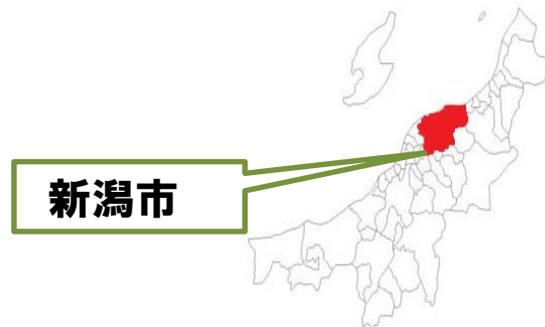


常設型の居場所

新潟県新潟市 地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」 (市と地域団体が協働で設置)

- 常設型居場所は助け合いの仕組みづくりを実践する場、体感できる場
人と地域の社会資源をつなぎ、参加者が担い手として活躍する場でもある
- 生活支援コーディネーターの研修の場としても活用しており、各種団体
(社会福祉協議会、民生委員、地域包括支援センター、介護者のつどいなど)
のほか、介護事業者も見学に訪れる
- 自治会や老人クラブの集会場所としても活用されており、小学校との協働に
よる子どもたちの健全育成事業も実施する予定。

| | |
|------|------------|
| 市の人口 | 約 803,000人 |
| 高齢化率 | 26.7% |



地域包括ケア推進モデルハウス(『実家の茶の間』協働運営)

新潟市 地域包括ケア推進モデルハウスとは

子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し、支え合いのしくみづくりをすすめるための拠点として設置している新潟市のモデル事業。市が空家を借上げ、任意団体「実家の茶の間」との協働運営で開設している。

河田珪子氏のノウハウを継承・波及していく新潟市の地域包括ケアシステム構築の要(かなめ)。



<物件データ>

住所:新潟市東区紫竹4丁目21-62
間取り:9SLDK(建物面積288㎡)
駐車:6台
築年:昭和44年



実家の茶の間の理念

『実家の茶の間』は人と人がつながる場。
人と社会がつながる場。
人の役に立ち、自分のを活かす場。
一方的にお世話をしたり、されたりするのではなく、気軽に助け合える場。
『実家の茶の間』の利用者とはサービスの利用者ではなく、“場”の利用者です。

- ◆毎週月水曜日(祝日も開催)
- ◆午前10時～午後4時まで
- ◆参加料300円(茶菓代)
※こどもは無料
※紫竹以外の方 年会費2,000円
- ◆食事をされる方別途300円
- ◆毎月第3水曜は保健師による
こころやからだ、暮らしの
相談会を開催。



改修も地域の皆で担当



住民説明会



『実家の茶の間・紫竹』の取組み (みんなが作り上げていく居場所に)



参加者自らが役割を見いだしながら建物改修や地元周辺地図、本日の献立表の作成を率先して手伝う



当番は手挙げ方式、できる人ができる時に。当番表は自主的に名前だけを書き込むだけにしている、大体いつも埋まっていく



茶碗やマグカップでなく紙コップを使うのは衛生管理につながるほか、自分の名前をマジックで書くことで名前の代わりにもなり、相手の名前がすぐわかり、会話ははずむ

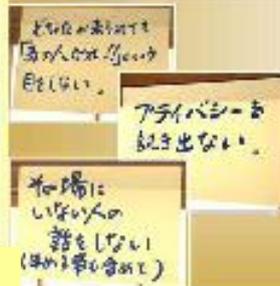


寄付物品による即売バザーも行い、運営費に充てている。また、エアコンやストーブ、冷蔵庫などは地元企業からの寄付



参加者は日平均20~40人 10時から16時まで出入り自由

- みんなの決まりごと
- どなたが来られても「あの人は誰？」という目をしない
 - プライバシーを訊き出さない
 - その場にいない人の話をしない



互いに思いやりながら心地いい場所をつくるためにいくつかのルールがあり、さりげなく貼り紙が掲示されている。その他「エプロン着用は台所だけ」や、「上座や下座をつくらない」など居心地のよさに妥協しないをしない



代表 河日蓮子さん

有償ボランティアとは

ボランティアによるサービスに対し、謝礼金が交付されるボランティア活動の仕組みをいう

- 謝礼金は主催団体が発行する換金可能なチケットで交付されるのが一般的
- 謝礼金は、提供される労力（労働）に対する対価（報酬）として支払われるものではなく、無償の労力提供に対して謝意を表すために交付される
- 謝礼金の標準額は労働賃金の市場価格より低く、最低賃金以下に定めている団体が少なくない



有償ボランティア（有償の助け合い活動）

【なぜ有償？】

助ける側と助けられる側の対等性（お互いさまの関係）を保つため

助けられる側

感謝の気持を表したい
全くの無償では気が引ける



気軽に助けを求められる

お互いさま
（対等性が確保される）



助ける側

報酬が目的ではない
しかし、これだけの支援
だからなにか謝礼があっ
たらうれしい



続ける気になる

有償ボランティア

※ お互いにとって優しいシステムとして1990年代から急速に広まった

時間通貨「周（しゅう）」で 無償の助け合い

「ちょっと困った」とき、気軽に頼める人が
いるかいないかで暮らし方は変わります。

「お礼をしないと頼みにくい」と思う人は、
時間通貨（地域通貨）があると頼みやすく
なり、相手も助けやすくなります。

時間通貨は少人数でできて、経費もかかり
ません。

誰もが持つ「時間」と「できること」を
つなげて、「ありがとう」の気持ちを
交換する助け合いです。



実家の茶の間・紫竹

参加回数券 **** 領収書

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

様

6枚綴り 1,500円

上記金額を領収しました。

平成 年 月 日

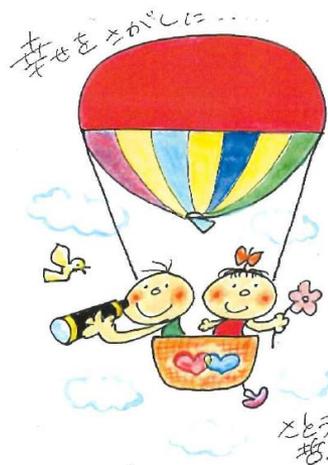
新潟市東区紫竹4丁目21番62号

TEL:025-287-2819

担当者領収印

実家の茶の間・紫竹

代表:河田珠子



実家の茶の間・紫竹

参加回数券 ① 300円

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

実家の茶の間・紫竹

参加回数券 ② 300円

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

実家の茶の間・紫竹

参加回数券 ③ 300円

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

実家の茶の間・紫竹

参加回数券 ④ 300円

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

実家の茶の間・紫竹

参加回数券 ⑤ 300円

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

実家の茶の間・紫竹

参加回数券 ⑥ 1枚お得 (300円)

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

参加回数券 **** 領収書:控

実家の手 ちょっとした手助けのお礼に使用

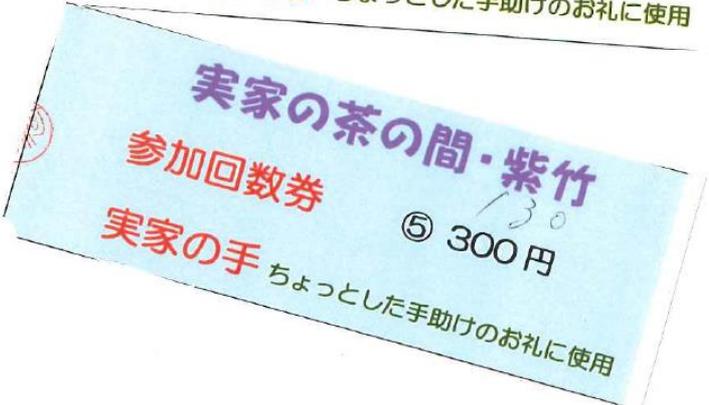
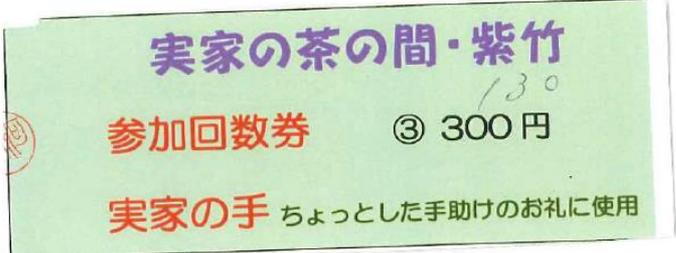
担当者サイン

様

より、1,500円を領収しました。

平成 年 月 日

実家の茶の間で始まった
有償ボランティアの
助け合い「実家の手」



甲西落合地区（湯沢自治会で買い物ツアー）



回を重ねるごとに
明るく元気になっ
ていく高齢者、買
い物だけじゃない
みんなでワイワイ
おしゃべりしなが
らドライブが楽し
い！支援者側も「
ありがとう」が嬉し
い

- ①アンケート調査の結果、買い物に自分でいきたい高齢者のニーズ確認
- ②関係者で協議（買い物ツアーの実施）

車は社協が提供してくれることとなった。

平成30年度市民対話集会
本竜王地区自治会合同会議(竜王一・二・三・四区)

「2025年問題 ～未来を考える～」

ご清聴ありがとうございました。